



カンボジアの子どもたちに教育の機会を 2004年7月 No.10

アジア未来学校便り

楽しみ半分 不安も半分

カンボジア事務所所長 安田理裕

カンボジアで一番暑いとされる4月が終わり、ホッとする間もなく今度は雨季を迎えています。雨季の間は毎日のように夕方になると雨が降り、これが11月頃まで続きます。村の生活においては、村を取り囲むようにできる池(?)で魚やカニなどが捕りやすくなるという利点もあるのですが、昨年の洪水のことを思うと気が気でないというのが私の本音です。

今年は無事に雨季を終えてくれるといいのですが・・・



子どもと遊ぶ安田

昨年度の経験を生かしたプロジェクト運営

さて、2年目に入った未来学校ですが、昨年の経験を元によりよいプログラムをつくるため、先生たちとの話し合いやデータの検討などを進めています。

先生たちとの会議では今年の改善策として、教科書やその他教材の効率的な活用方法、どのように公立小学校への編入を促進するかが話し合われました。特に初級クラスにおいて、いかに効率的な学習を行い、また学ぶことの楽しさを理解させるかという点に多くの議論が割かれています。また、今後は、それぞれのクラスにおいて月ごとにシラバス(授業計画)を作成し、授業目的の明確化を図り、月の終わりにはその達成度についても評価をしていくことになり、早速実践しています。



昨年の洪水



先生たちとの会議

～目次～	
アジア未来学校便り	1
アジア未来学校を訪ねて	4
総会予告	5
韓国支部便り	
韓国の暮らしあれこれ	
川越教会で活動報告	6
東設土木コンクリートさまご寄付	
萬富さまご寄付	
フリーマーケットほか	7
事務連絡とお知らせ	8

データの検討ですが、昨年度の集計を見てみますと、2003年4月の開校から2004年3月31日までの間に、合計251名の子どもたちが未来学校の授業に参加したことが分かります。このうち、134名が未来学校に在籍（4月現在）分かっているものだけで20名がルセイサン小学校へ編入しています。残りの97名に関しては、引越しや他団体の識字学校への転出といったケースと考えられますが、それだけでなく、どの学校にも通わない不登校というケースもあるようです。特に、初級クラスでの生徒の出入りが激しいようで、上のクラスに上がる前に辞めてしまうというケースが多くあるという結果が出ています。元々、未就学児童が非常に多い村ではありますが、未来学校が開校した後でも、様々な社会問題によって安定して学校へ通えない子どもたちが多くいることを示しており、この点は今後の大きな課題になっていくと考えています。

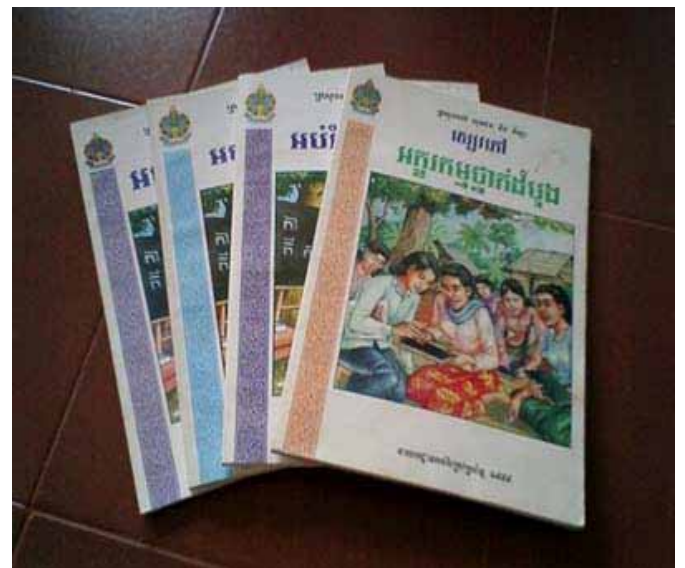


できるだけ長い期間の教育を受けることは大切な目的ですが、それぞれの子どもにはそれぞれを取り囲む環境がありますので、私たちがつくるプログラムに子どもを合わせるのではなく、私たちが子どもの状況を理解し、それに合わせていくという部分も大切だと考えています。

クラス替えと学習進度

6月18日現在、在籍児童数は127名となっています。

5月に3度目のクラス替えが行われ、上の2クラスが最後の1冊である4冊目の教科書に進むことになりました。これまで1冊目の教科書をじっくりと学んできた下の3クラスからは、2冊目の教科書に進級する子どもたちの選抜が行われ、この結果26名の子どもたちが2冊目のクラスへと進むこととなりました。この結果、4冊目のクラスが2つ、2冊目のクラスが1つ、1冊目のクラスが2つというクラス編成になっています。



4冊の教科書

「開校から一年以上にもなるのに、まだ初級クラスが2つあるの？」という疑問を持たれる方がいらっしゃるかもしれませんが、これには上にも述べましたように、児童の出入りが多いという問題があり、必ずしも同じ子どもたちが同じことを学んでいる訳ではありません。できるだけ門戸を広げ、できるだけ多くの子どもに少しでも教育の機会をあたえるという観点から致し方ない状況だと考えています。



その1冊目の教科書を学ぶ初級クラスですが、ここでは、子どもたちが学習の基礎となる文字や数字をじっくりと学ぶことに焦点が置かれています。この教科書自体は文字と単語、短文の学習のみで、数字の学習は入っていませんが、実際子どもたちの中には、数字を知っているだけでなく簡単な計算ができる子どもが数多くいることから、足し算や引き算などの簡単な算数の学習も行われています。これは、親の手伝いなどで買い物に行ったり、小さな店の店番をする子どもたちがいるため、中には、日本の同世代の子どもより算数が得意な子どももいるのではないかと思います。

2冊目の教科書では、クメール語の分野では短文から文章へ、計算もより高度なものへと発展していきます。この教科書、そして3冊目、4冊目で扱われる文章の題材には、保健衛生や環境保護などに関わるものが多くあり、同時に理科や社会科の勉強もできるようになっていますが、大人にも使えるように編まれているため、どうしても子どもには理解しにくい内容も含まれています。



副読本の読み聞かせ

ここが先生の腕の見せ所ではありますが、これを補うためにも、おとぎ話や昔話の副読本なども活用して、バランスのとれた学習を目指しています。

最後となる4冊目のクラスでは、これまでの学習の復習やまとめだけでなく、小学校への編入の促進も大きな目的の1つになってきます。これまでも編入先となるルセイサン小学校職員とも意見交換を行い、編入がスムーズに行えるような授業づくりを進めています。読み書きと計算の基礎力をしっかりと身につけさせるだけでなく、勉強の楽しさと大切さを一緒に考えるということも大切な課題だと考えています。

また、このクラスでは、単に教科書に書かれていることを学ぶというのではなく、それらを生かしながら、作文や絵画など自己表現の場をどんどん増やしていきたいと思っています。言われたことを覚えるという受身型の学習から、発信型の学習へと発展させていければと思っています。



カンボジアの小学校では年度末を迎えています。9月の新学期には、どれくらい子どもたちが4冊目の教科書を終わることができるのか、また小学校へ編入することができるのか、楽しみ半分不安半分ですが、できるだけよい結果が導き出せるように今から先生方やルセイサン小学校職員とも協力しながら準備を進めたいと考えています。



アンロンコン村を支援する意義

高橋政行

私のアジア未来学校訪問は2回目だ。前は約2年前にチバアンポウという村で学校を運営していた時に訪問した。当時、高校を卒業して間もなかった私は、これが貧困というものかと大きな衝撃を受けた。つぎはぎのシャツに、サイズの合わないズボン。学校から帰ると生活費を稼ぐために漬け物作りのお手伝いをする子ども。家にはナベやちょっとした家具。生活に必要な最低限なものしかない。日本との生活の違いに戸惑いを感じた。あれから、2年の歳月が流れ、現在識字学校を運営しているアンロンコン村を訪問した。そこには以前の村よりもっと貧しい状況があった。家は土台がなく、木の棒を地面にさし藁をかぶせただけの簡素なもの。台所もない。もちろんナベもない。家具もない。あるのは少しの衣類だけ。おそらく、ぼくが持って行ったリュックの中身よりも家財道具は少ないだろう。仕事らしい仕事もないようだ。

こんな状況で暮らすのは本当に大変なことだ。この村を支援する意義を再認識することができた。そして、貧しさ故に目的もなく昼間からトランプに興じる大人の多いこと。そんな環境で子どもたちに明るい未来はあるのだろうか。未来ある子どもたちに識字教育の機会を提供し自分の未来を切り開く力のある子どもを一人でも多く送り出す。これこそ、われわれの使命であろう。現場に入ることによって、自分がこの団体で何をすべきか学ぶことができた。

学校がつくり出す多くの可能性

菊池礼乃

2004年3月、日本では桜がきれいに咲き始めた頃、私は初めてカンボジアの地を踏みました。その頃カンボジアはちょうど乾季で、日中は35度以上の猛暑。汗をたらたらかきながら、初めてアジア未来学校を目にすることになりました。これまで写真やビデオを通して学校に通う子供たちのようすは見聞きしてきたけれど、実際に子どもたちが元気よく声を出して文字を読んだり書いたりしている姿を見て、どこの国の子どもたちも初めて触れる文字や計算への好奇心は変わらないんだと改めて感じました。

学校を訪問するまで、私の中でひとつ気になっていたことがありました。それは、識字教育というものを現地の人々が喜んでいなかったら、私たちはそれを押し進めていいのかということ。アンロンコン村でも、当初は識字教育に関心のない親も多くいたようですし、もしかしたら先進国にいる人が考える「正しさ」の押しつけなのではないかと頭の隅に引っかかっていたのです。現地を訪問して、またカンボジア人スタッフや先生方とも話して、やはりこのアンロンコン村での識字教育は必要だと実感しました。もちろん、識字教育を含む基礎教育は世界的にも推奨されていますし、事実カンボジア政府も推進していることではあります。私を感じたのはそれ以上に学校があることで多くの可能性が生まれているということです。

それは、子どもたちが文字を読めるようになって世界が広がるとか、村のコミュニティ形成に役に立つとか、漠然としたものなのですが、そのようなものを確かに感じ取りました。村の人がそれを感じているのかどうかは私には分かりませんが、それでも子どもたちを学校に送っているという現実からすれば、どこかに未来学校がある意義を見出しているのだと思います。

私はこの未来学校訪問を経て、このプロジェクトに関わる一員として、会員の皆さん、スタッフ、アンロンコン村の人々と協力して、積極的に活動していきたい！と気持ちを新たにしました。まずは私にできることから、どんどん行動していきたいと思います。

総会予告

9月23日(祝日・秋分の日)午前11:00、総会をアジア文化会館にて開く予定です。午後からは懇親会も行いますので、会員の皆さま、ぜひお越しください。

韓国支部便り

韓国支部は、日本と違って学生中心で運営されています。

4月5日 バザー

5月15日 「美しい財団」主催のバザーに参加。収益金のうち50%は学生団体連合より外国人労働者のための病院に寄付。同時に日本文化紹介のささやかな展示を行いました。(展示品の一部は日本支部から送りました。)

5月29日 繁華街明堂でバザー。

以上三回の売上金から約40万ウオン(約4万円弱)が未来学校の費用にあてられます。

韓国の暮らしあれこれ

韓国料理といえば辛いものばかりと思っている方もいるでしょうか?冬の寒さが厳しい韓国では、体を温めてくれる唐辛子はニンニクや朝鮮人参と並んで料理には欠かせないものです。韓国人も「辛いねえ」といいながら食べるのですが、それは「おいしいねえ」というのと同義語のようです。「赤ちゃんも唐辛子を食べるの?」と聞いてみると、やっぱりはじめは食べないのですが、だんだんと馴らしていくのだそうです。

ところでわたしはあいにく辛いものが苦手です。「何が食べたい?」と聞かれて「野菜」とこたえるわたしにすすめてくれたのは、サムパップです。直訳すると「包みご飯」。チシャ・ゴマの葉・香菜・セロリ・ワカメなどいろいろな種類の中から、好みの野菜にご飯を少しのせ、焼き肉・刺身、そしてキムチや野菜の和え物などを添えて包んで食べます。こうするといくらかでも食が進みます。もちろん大ざるに盛られた野菜はお代わり自由なのですから、韓国は日本で思う以上に野菜が豊富なところだといえるでしょう。農村に別荘を持って野菜作りをしている友人宅では、畑からとってきたばかりの生のほうれん草や小松菜・白菜に人参も添えてパリパリといただきました。まだ若い蔕をゆでて葉も茎も一緒にサムパップで食べるのもとてもおいしいです。

ここでいただいたホバクチュク(カボチャ粥)の話をしてしましよう。一抱えもあるカボチャを全部スライスします。それを大釜に入れてかまどにかけ、ひたひたの水でグツグツ煮ます。小豆やウズラ豆、それに米粉でつくった小さな団子も入れます。むかしは産後の栄養回復に食べさせたものとか、身も心もホックリと暖まるお粥です。

ほかにもアンコウ鍋・フグチリなどの魚料理、タニシのスープなどあっさりした料理も結構あります。「珍味」といえるかと思いますが、全羅南道南端で試したセバルタコ。親指と人差し指で丸をつくったぐらいの胴体に細い足(セバル)がついているタコですが、これを生きたまま、割り箸で胴体を突き刺し足を箸に巻き付けて、焼酎を含んだ口にほうりこみます。タコが暴れて吸盤が口の中にくっつきませんが、ひるまずにエイッと食べるのです。香ばしくてなかなかのお味です。ちなみに市場では1匹100円ぐらいでした。(波多野)

日本聖公会川越キリスト教会で活動報告会

3月28日、私が所属しています川越教会で約2時間、わたしたちがカンボジアで行っている識字教育の報告会をおこないました。報告内容は

日韓アジア基金の内容

カンボジアの歴史と首都プノンペンの様子

カンボジア、アンロンコン・タマイ村での識字教育の3点です。

教会の大型スクリーンにプロジェクターを使って写真およびビデオで子どもたちの授業の様子や村の様子を写し説明しました。



日本聖公会川越キリスト教会

最後に写真を見せながらこの子どもたちにご支援くださいとお願いしましたところ司祭さんご夫妻を初めとして14人の方からご支援いただき感謝しています。

(江本)

株式会社東設土木コンサルタントさまより30万円のご寄付

3月22日、御茶の水にある株式会社東設土木コンサルタント(東京電力グループ)の蔵持社長、安田室長にお会いして、わたしたちの識字教育活動を説明し、30万円のご寄付をいただきました。

蔵持社長とは1981年頃、東電の今市発電所建設時にご一緒し、社長は東電の次長、私は鹿島建設の工事課長としてご指導いただいた仲なので、江本さんが立派な活動をしているのだから協力しようと言ってくださいました。

いま企業は大変厳しいですから、そんな中でよくご協力いただけたと感謝しています。

(江本)

株式会社萬富さまより日本聖公会川越キリスト教会を通して25万円のご寄付

6月12日、埼玉県川越市にあります、株式会社萬富さまが創業30周年記念のチャリティーデイナーショーを川越のプリンスホテルで開催されました。当日は460人の人達が集まり、芸能人としては松山千春なども出演し、盛大にショーが行われました。萬富さまは、ここで集まった寄付金に会社からのお金をあわせた200万円を、川越市の社会福祉協議会と川越キリスト教会に100万円ずつ寄付して下さいました。川越キリスト教会はこのお金を

日韓アジア基金のカンボジアにおける識字教育活動
浅草聖ヨハネ教会による日曜給食活動

山谷・すみだリバーサイド支援機構による きぼうのいえ

日本基督教団 山谷兄弟の家伝道所 まりや食堂

に寄付されました。



新井社長より川越の社協と教会に寄付金贈呈

(江本)

フリーマーケットに初参加！

5月9日、ジュニア・スタッフが中心になって、明治公園で行われたフリーマーケットに初めて出店しました。当日は未来学校で学ぶかわいい子供たちの写真を貼ったパネルを設置したので、その笑顔に引き寄せられるお客さまもいらっしゃいました。

カンボジアから仕入れてきたカンボジア綿のスカーフなどの雑貨とともに、私たちの家にある「全然使わないけれど、捨てるのはちょっと・・・」といった贈答品などを中心に売り出したところ、なんと47,000円もの収益をあげることができました。(スタッフの交通費、及び送料など諸経費はスタッフの自己負担です。)

このフリーマーケットは今後も続け、全額を未来学校の運営資金にいたします。

次回フリーマーケット参加予定は10月です。詳細は、次号ニュースレターに掲載予定ですので、ぜひ会員の皆さまにも足を運んでいただきたいと思えます。

会員の皆さまにお願いです。ご自宅で眠っているものを商品としてご提供ください。具体的な品名、送り先は8ページをご覧ください。皆さまのご協力をお待ちしております。

(千葉)

募金箱設置のお知らせ

東京都新宿区西早稲田にあるアジア雑貨屋「シクロ」に募金箱、パンフレットを置かせていただくことになりました。アジアのアクセサリ、バッグからインテリア雑貨までそろっているお店です。店頭には当基金のポスターが貼ってあります。機会があれば、ぜひお店をのぞいてみてください。(菊池)

スタッフ紹介

松田啓志

こんにちは！今年の3月から活動に参加させて頂いています、ジュニアスタッフの松田啓志です。まつだひろし、と読みます。現在、慶應義塾大学経済学部にて在籍している大学2年です。大学一年目がもうすぐ終わろうとしていた2月、ふと自分がこの一年間何をやってきたのか考えてみました。これが始まりです。そして、周りに流されて結局何もやってこなかったということに気づき、以前から自分が興味を持っていたボランティア活動をしようと考えました。日韓アジア基金を選んだ理由は、日本と韓国が協力してアジアを応援して行こうという考え方に共感し、また、いざボランティアに参加しようとは思いつても、自分に何ができるのかとても不安だったとき、すぐに帰ってきた「歓迎します」という返信があったことです。とりあえず活動に飛び込んでみようと思った瞬間でした。実際に参加してみて、幅広い世代の方々と一緒に活動することにすごく新鮮さを感じています。同じ空間に居るだけで勉強になることがたくさんあります。これからも「できることをできる範囲でやる」というボランティアの考え方で、「できること」を少しずつでも増やしていけたら、と思っています。困難も若さでカバー！



04年2月～5月に会費・ご寄付を下さった方(敬称略・五十音順・最下欄を除く)

秋元 久美子	小川 英	下里 裕美子	中沢 茂久	古川 かおる	三觜 治樹	山根 寛
井戸端 裕子	小熊 修次	神保 国男	長島 和子	星 光雄	三藤 雅道	吉崎 秀一
乾 寿夫	金澤 潤子	神保 朋子	中村 輝実	堀川 泰義	峯村 公雄	吉村 悦子
井上 卓也	金本 陽子	鋤柄 慎吾	名原 壽子	前田 了子	村松 悦子	若宮 英生
植原 光子	金子 十三松	高木 桂子	長谷川 容一郎	松井 ふみ子	茂木 英世	若宮 光子
牛島 暁子	北川 整	瀧口 利章	橋本 二郎	松田 明美	柳田 文子	若宮 康夫
内尾 亜津子	金 潤子	田村 義和	平塚 千尋	松田 三	山越 栄子	渡邊 勝治
王 嶺	小林 栄次郎	千葉 眞衣子	福島 しげ子	松本 修一	山崎 純子	
大河原 万里子	座間味 朝雄	戸口 治子	福島 忠男	松本 昌慶	山崎 美穂	
大坪 玲子	芝村 篤樹	長崎 新一	藤井 幸子	松本 操	山崎 善江	
(株)東設土木コンサルタント		(株)都市環境エンジニアリング		(株)スリーエーネットワーク		

ご協力ありがとうございました。

商品ご提供のお願い:フリーマーケット!!

10月に開催されるフリーマーケットに向けて、商品を集めております。決して高価なものではなくて結構です。以下のものがございましたら、ご協力をお願いいたします。

未使用品：タオルセット・シーツ・カバー類・食器類
使用済みも可：かばん・アクセサリー

上記以外のものは、出店規則に触れる恐れがございますので、ご遠慮させていただきます。ご送付くださる方は、「フリーマーケット商品」と明記の上、以下の宛先までお送り下さい。誠に申し訳ございませんが、送料はご負担頂きたく存じます。

〒156-0055 世田谷区船橋1-3-17 井内 和夫

電話 03-3429-8897

ご質問がございましたら、下記にご連絡ください。

期限は9月20日とさせていただきます。

日韓アジア基金 | Love Asia Fund **日韓アジア基金 日本支部 | Love Asia Fund Japan**

代表 ^ウ 禹 ^{スグン} 守根

代表理事 江本 哲也 事務局長 高橋 政行

<お問合せ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2 12 13 アジア文化会館内

Tel:03-3946-7565 FAX:03 3946 7599

E MAIL: iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp

URL: <http://www.iloveasiafund.com>

ご入会・ご寄付のお願い

学生会員 : 年会費1口2,000円 何口でも
 一般会員 : 年会費1口5,000円 何口でも
 法人会員 : 年会費一口10万円 何口でも
 ご寄付 : 2,000円以上おいくらでも

<郵便局振替 口座番号>
振込口座 00180-2-25153
日韓アジア基金

ご入会及びご寄付を頂いた方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。